

ただいま育休中！（男性）



男女共同参画だより 10月臨時号 No.8

前号でもお知らせしたとおり、10月を「仕事と家庭を考える月間」と定めているところもあるようです。男女共同参画だより10月臨時号第2弾では、理研で恐らくは3人目の男性の育児休業取得者の生の声をお届けいたします。

10月1日～10月31日まで育児休業を取得されている、加藤分子物性研究室・研究員 山本浩史さんの「育児休業体験記」です。所属長の加藤礼三主任からのコメントも併せてお読みください。

＜育児体験記＞

ひと月ほど育児休暇を取得したところ、理研の男性で育休を取るのは珍しいとのことで、体験記を書くことになりました。本来一ヶ月というのは自分では短いと思うのですが、いくらかでも次の方の参考になれば、ということで思いつくことをつらつら書いてみたいと思います。

そもそもなぜ育休か、ということですが、うちは既に子供が3人目なので、嫁さんが3回取るのに自分が1回もとらないのはきまりが悪い、というのが率直なところでしょうか。



以前のお産を振り返ると、1人目の時は自分が育休などという発想もなく過ぎ、2人目の時は研究テーマが佳境に入っていたことや給料が無くなることから踏ん切りがつきませんでした。しかし、女性にしてみれば、(10ヶ月前から)お産の時に自分が忙しいかどうかなんて分かりませんから、やはりこんなことを言っているのは男性の甘えなのでしょう。

ただ、私自身も子育てにはこれまでの2人でそれなりに慣れてますから、育休自体に特に不安はありませんでした。そんなわけで出産予定日の4ヶ月ほど前に嫁さんに「今回は自分も少し育休を取る」という話をして、了承を得ました。時期としては9月が学会なのでその直後の10月に取得ということにして、4月の初めには主任や研究室のメンバーにも宣言しました。

子供が産まれた後のことを前もって計画出来るというのは、1人目の時には(そもそも無事産まれるのかどうか心配で)あり得なかったことですが、3人目になってくると父親であっても慣れてくるものです。女性は1人目の時からもっと真剣にそういったことを考えているのでしょうね。

実際に取ってみると、月齢が小さいために子供がよく寝てくれるという事情もあり、そこそこ自由に時間が使えます。今回の休暇で科研費申請・資格取得・論文執筆に取り組んでいるのですが、途中で業者などにインタラプトされない分、はかどるように思います。もちろん実験は出来ないでその部分は進みませんが、日常に追われてじっくり取り組むことが出来なかったこと(部屋の整理整頓なども含めて)に手をつけることが出来るのはありがたいですね。朝早起きして作業をすると一番じゃまが少なく快適です。

～裏に続きます～

まあ、育休に限らず育児全般に言えるのですが、どうしても自分で使える時間の「量」は減ってしまうので、時間の「質」をどうやって上げるかということに関心が行くようになります。そうやって考え出すと、それまでやってもやらなくてもいいことに随分時間を使っていたことが見えてきて、かえって効率が上がるケースもあるように思います。

また、時間の質を上げるためには装置の自動化や研究補助員の採用も考えるようになるのですが、そうすると予算申請の際の気合いの入りが違ってきます。そういう意味で、私の場合はモチベーションアップにつながっている部分がありますね。

こうやってカイゼンを続けていくと、いずれ子育て自体は子の成長と共になくなって来るわけですから、より多くの質の高い時間をもてるようになるのではないかと期待しています。

また、育児そのものから学ぶものもいろいろあるように感じます。育児は自分一人ではどうにもならない場面がよくありますから、他人に色々お願いしながら進めていくことにはなりますが、そうしたときに相手に気持ちよく手を差し伸べてもらうにはどうしたらよいか、親同士の協力関係を築いて互いの手間を減らすにはどうすればよいか、ということを考えるのは、結局研究においてお世話になっている人たちとの人間関係についても考える機会につながってきます。

また、子供といると何をすることも自分の思い通りにならずしょっちゅうトラブルが起きますが、そんな時にも臨機応変に対応する心構えだとか、あらかじめ説明しておくこと・あえて失敗させてみること・そして楽しくやることの大切さなどを実感することが出来るのは、結局子供と一緒に自分も成長していることなんだなと思います。

そんなわけで、気の持ちようで育休・育児というのいろいろな活用法があると思います。半年以上取るとなるとまた話は違ってくるかもしれませんが、任期制の方に関しては私から見るとまだ制度が不十分という気がしますが、色々な工夫の仕方があると思いますから、もし事情が許せば皆さんも育休を取得されてはいかがでしょうか。今だったらまだ、ちょっと育児参加しただけで「やった」ことにしてもらえお得な時代でもあります（それでも大変は大変ですが）。年金・社会保険関係の請求書が来て面食らったりすることもあります。ベビーカーを押して街を歩いていると、いろんな人が声をかけて来たり手伝ったりしてくれます。男性が赤ちゃん連れて歩いているのがあぶなっかしいのですが、そういった親切に上手に甘えつつ、この後取得される方も楽しい育休を過ごされることを期待して筆を置きたいと思いません。

～加藤主任より～

私自身は、父親としては落第だと思っていますので、山本研究員から育児休業の話聞いた時は驚くとともに「えらい！」と正直思いました。メール等で連絡を取り合っていますので、1ヶ月程度であれば、大きな支障は生じないようです。次に生まれる時は男と女どちらが良いか、と聞かれれば、迷わず「男」と答えてしまう私ですが、少なくとも「育休をとれる男」と答えられるようにならないといけないと思い始めています。

山本さん、加藤さん、ご協力、本当にありがとうございました。